

ラ フォレ セ ラ ヴィー 森こそ命



La Forêt, C'est la Vie !



「緑のサヘル」の旧スタッフによって設立された「チャド緑化青年組合」の育苗所。1999年から苗木の生産を始め、8年目の今年は12樹種8,500本の育苗を行なっています。

6月から7月にかけてチャドに赴き、現在実施している諸プロジェクトの調整を行なって来ました。ここ数年、国内の活動に集中していましたので、実に3年4か月ぶりの滞在でした。40℃の猛暑、連日の停電、長期にわたる水不足といった状況下での業務はなかなかハードでしたが、一方でかつての懐かしい仲間達と再会する機会にも恵まれました。

チャドには以前「緑のサヘル」に在籍した旧スタッフたちが中心になって立ち上げた団体がいくつかあります。首都ンジャメナに拠点を置き、北部から南部にかけて3つの地域で環境活動が続けている「緑のサヘル・チャド」、ンジャメナ近郊に育苗所を構え、地域植林や学校緑化を行なっている「チャド緑化青年組合」、南部のバイリ村に設置された緑のサヘルの育苗センターを引継ぎ、地域の環境保全を進めている「森林再生・環境保全有志組合」等々。彼らの多くはごく普通の農民でしたが、「緑のサヘル」で共に汗を流し、種を蒔いて木を育てるという体験を積み重ねながら、少しずつ知識や技術を蓄え、そして環境意識を育んだのです。

「緑のサヘル」を離れてまだ3年目の者も、もう10年近く経つ者もありますが、かつてのスタッフ達が、それぞれに困難を抱えながらも広大なチャドの各地で苗木を作り、木を植え続けていることは、本当に嬉しいことですし、同時に感嘆すべきことでもあります。彼らとの再会で、これまで継続して来た現地への働きかけが間違っていなかったことを改めて実感し、励まされる思いでした。そして今後は、現地の個々の団体を支援するだけではなく、こうした「緑の仲間」を互いに結び付けるネットワークを築いて行く必要性を強く感じました。

(緑のサヘル事務局長 菅川拓也)

ーJICA 協力事業ー

チャド共和国アベシエ市環境教育プロジェクト



現在、チャドの東部ワッダイ州の州都であるアベシエで、日本の JICA（国際協力機構）によって「チャド共和国アベシエ市環境教育プロジェクト」が進められています。

このプロジェクトは、アベシエ市の教育関係者と学童、父兄を対象に啓蒙講習と技術移転を行ない、学校敷地の緑化を実践することによって、環境意識を育もうとするものです。「緑のサヘル」は、この事業に現地協力団体として参加しています。

2006 年 8 月 3・4 日には、市内 28 の小学校の教師と学童父兄等、約 70 名を対象とした環境教育講習会（環境全般、苗木植栽、後管理等）を実施、8 月 15 日には市内中心部にある中央小学校（ecole du centre）において、記念式典が行なわれました。今後は 5 つの小学校において、植栽苗木への生徒と教師による灌水等、後管理が続けられ、学校敷地の緑化が実践されることになっています。



式典には州知事や県知事などの有力者、仏軍関係者、UNHCR アベシエ代表および各 NGO の代表ら約 50 人と、環境教育講習会に参加した各小学校教師および学童父兄が参加しました。



州知事の挨拶に続いて、州知事、計画開発省、環境水利省、教育省、JICA、緑のサヘル等が記念植樹を行ないました。この事業が地域緑化のきっかけになればと思います。



UNHCR アベシエ代表（左）と挨拶を交わす緑のサヘル・スタッフ（右）。中央は JICA 専門家。UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）アベシエは現在、スーダン難民キャンプを統括しています。



5 つの緑化実践校には JICA 事業であることを示す看板が立てられます。現地で事業に協力している緑のサヘルと現地 NGO、「Les amis de l'arbre（木の友達）」の名前も併記されます。

活動報告 1

チャド共和国



(チャド担当；佐藤裕美)

アベシエ地域環境保全事業：UNHCR パートナー事業 (2006 年 5 月～7 月)

緑のサヘルがチャド共和国の東部、アベシエ地域にて国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の委託事業を開始してからちょうど2年が経ちました。今年も十分な降雨に恵まれ、植林事業にあつては雨季の始まりである7月下旬から苗木の植栽が順調に進められています。また、改良かまどの普及についても、現場スタッフの努力と難民の理解を得ることによって、予想以上の成果を挙げる事ができました。

●植林



←左の写真は育苗所の様子。緑のサヘルでは2つの育苗所を設置しており、2006年度は総計6万本の苗木が生産される予定になっています。

苗木が植栽に適するまでに成長すると、ポットに入ったままの状態、苗木配布の準備が始まります。女性も一緒に参加します。

→こちらは去年植樹したマンゴ。
こんなに大きくなりました。



→写真は左から、レンガで苗木の囲いを作っているところ、中央がその囲いの中の様子。放し飼いになっている家畜が、苗木を食べてしまわないように、一本一本苗木を保護しなければなりません。

一番右の写真は、枯れ木を用いた囲い。これは苗木を受け取った地域の住民が自発的に工夫して、レンガを使用せずに作ったものです。



●改良カマド



三石カマド(左)と粘土製の改良カマド(右)。使用の具合を比べています。



改良カマドの実用性を理解した難民が、自発的に2個目を作製。日常的に使用していることが伺えます。



金属製の改良カマドを作製するため、ドラム缶を伸ばし、一枚の平らな鉄の板を作る作業。機械がないので人の手でドラム缶を伸ばします。

活動報告2

ブルキナファソ



(ブルキナファソ担当；水真 洋子)

タカバングウ地域生活保全事業/技術移転事業

(2006年5月～7月)

雨季が始まり、タカバングウ村の周囲にも緑が目立ち始めています。「生活保全事業」は、実施の主体となる青年グループから植林や土壌回復活動に対する支援依頼が寄せられており、現在、支援の内容や条件についての話し合いが行なわれています。また、「技術移転事業」(環境省による地球・人間環境フォーラム委託事業)は、荒廃地回復、畜耕の2グループが雨季を向かえて、本格的に活動を始めています。石鹼、裁縫の2グループの活動の本格化は雨季明けになりますが、現在少しずつ準備が進められています。



村の入り口にある季節河川、ゴリア川に水が入って来ました。

●荒廃地回復技術グループ



雨季を前に準備された畑。



水溜め用の石を運ぶ女性たち。



雨季を向かえ成長する穀物。

地力を失った土地に、溝を掘ったり土を盛る等して水が溜まりやすくしたり、穀物の植え穴の一つ一つに堆肥を入れたりして地力を回復し、収穫を増やす試みです。昨年度より面積を増やし、2回目の種蒔きを終了しています。

●畜耕グループ

まだこの地域で普及していない、牛やロバを使った耕作の実験です。牛の調教と牛に引かせる犁の強度が問題でしたが、この活動の先進地域から情報を収集する等して、現在はどちらも解決しました。今年はソルガム(モロコシ)を栽培しています。

(左) 雨季前の土は硬く、作業が大変。

(右) 雨季の土は軟らかいが、雑草との闘いになる。



●石鹼グループ



石鹼グループが前回作った石鹼は、現在までに約100個が売れました。他地域の先進グループから、より安価な材料で石鹼を作る方法を学び、また作製した石鹼に押すスタンプを作って、次回の作製に備えています。(写真左)

裁縫グループの衣類作りも、少しずつ進んでいます。技術的にはまだまだです。学ばなければならないことは山積みで、現在は刺繍枠を購入し、刺繍研修に備えています。(写真右)

●裁縫グループ





●帰国報告会特集；

「スーダン難民とチャドの住民による環境保全活動 ～二重の緊張状態の中での取り組み～」

2006年6月2日（金）、渋谷の環境パートナーシップオフィスにおいて岡本敏樹の帰国報告会が催されました。この報告会は（特活）アフリカ日本協議会の後援を受けて開かれ、難民キャンプ地周辺の文化的な事情や住民の生活の様子など、関連書籍やホームページではお伝えしきれない、一スタッフ、そして一日本人として緊張状態のさなかをくぐりぬけてきた、貴重な経験談が紹介されました。

チャド共和国のスーダン国境沿いに、北から南にかけて約 600 km（東京から青森の直線距離）の範囲に 12 のキャンプが設置されています。スーダンとの国境沿いということもあって、昔から度々紛争状態にはなったのですが、本来は民族が同じで親戚のようなものですので、スーダン側とチャド側には人の行き来がありました。しかし今回は、多数のスーダン難民が発生したことで、難民を受け入れるチャド側の地域住民に強いプレッシャーを与えることになってしまいました。元来、食糧や水、森林資源が乏しい地域でやっと生きていたところに、20 万人を超える難民が流入して来たのですから、脅威を感じて当然です。



襲撃されたキャンプ地付近の様子。民間人が被害の対象となることも少なくない。

実際、薪を取り合って地域住民と難民の間に争いが起こっていますし、ある面では様々な配給を受けている難民の方が住民より恵まれており、嫉妬の対象になったりしています。ここにまず、地域住民と難民の対立がある訳です。

また、スーダン反政府勢力の脅威もあります。一概に全てが反政府勢力のせいとは言えませんが、確かに大きな脅威です。国境を軽々と越え、スーダン難民キャンプに対して略奪・破壊行為を行なうこともありますし、国境沿いに点在しているチャド側の村に対して略奪行為を行なうこともあります。さらに、チャドの反政府勢力という脅威もあります。去年の 10 月以降は、今年 5 月 3 日にあった大統領選挙に向けて緊張度が高まり、武装したままのチャド軍人が失踪すること多くなっています。彼らは基本的に食料を持たずに脱走するので、その調達のために近隣の村を襲って略奪行為を行なったり、時には殺害に至ることもあります。ですから、このアベシエという地域はスーダン側のプレッシャーも、チャド内部のプレッシャーも存在している複雑な地域と言うことが出来ます。別の言葉で言えば、国家レベルの緊張が常に介在しているのです。

今年 5 月チャドのイドリス・デビ現大統領が、スーダン共和国に対して正面きって国交断絶宣言をしたことに象徴されるように、以前から穏やかな状態ではなかったのですが、特に 2005 年 5 月 1 日以降は緊張度が高まっています。大統領選挙を控えた対立関係は、武装したチャド人の脱走兵士を生み、そういった人たちが国境を越えてスーダン側に逃げ、活動を展開しています。こうした状況はスーダンでも同じで、スーダン側の反政府勢力もまた同じようなことを繰り返しており、二重の意味で厄介な状況にある訳です。

結論として、地域と国家という 2 つのレベルの問題が存在する訳ですが、国家レベルの問題に関しては、民間人が対処出来る範囲ではありません。ですから、緑のサヘルを含めた多くの NGO が行なっている活動は、住民と難民の双方に働きかけ、地域レベルの緊張を解きほぐす重要な役割を担っているとも言えるのです。

* さらに詳しい内容がお知りになりたい方には、報告会当日に使用した資料を送付いたします。
緑のサヘル東京事務局まで直接ご連絡ください。

★ イベントのお知らせ ★

夏休みをちょっと延長して、都内でアフリカ気分を楽しんでみませんか？

<アフリカン・フェア>

2006年9月2日（土）、3日（日）、4日（月）の3日間にわたり、お台場の東京ファッションタウンビル（国際展示場正門駅）にて、アフリカを目いっぱい楽しめるイベントが開催されます（入場無料）。初日の2日にはファッションショー、3日と4日には日本ではなかなか聴く機会がない、さまざまな地域のアフリカン・ミュージックのコンサートが開かれます。

緑のサヘルでは、チャドとブルキナファソから届いた民芸品やアクセサリー、オリジナル絵葉書などを販売いたします。今年私たち緑のサヘルがお店として出展する機会はこれで3度目ですが、次回は来年以降となる予定です。珍しくてちょっと不思議なお土産たちに出会えるまたとないチャンスです。皆様のお越しをお待ちしております。

主催；経済産業省、日本貿易振興機構（ジェトロ）

後援；外務省、社団法人アフリカ協会



ブルキナファソの不思議な真鍮の置物や、かわいいビーズのアクセサリーなど、個性的なアフリカ雑貨が勢揃いです！

<異国の風号 地球旅行、でかけヨット！ ～第一回ブルキナファソへの旅～>

未知の国との友情をはぐくみながら、国際交流、地球の未来、私たちにできるささやかな支援などに想いを馳せて、西アフリカの素敵な国、ブルキナファソへのバーチャル・ツアーにでかけませんか？

2006年9月9日（土）、10日（日）の2日間、ブルキナ民謡の紙芝居上演、トークショーなどが開催されます（入場は無料ですがイベントの参加は一部有料）。アフリカ料理を楽しみつつ、のんびりくつろぎたいという方も歓迎です。型にはまらない自由な感覚で、ブルキナファソに触れることができる空間が、この2日間に限り東京に登場です。

会場は京王井の頭線の東大駒場駅より徒歩2分、一階にすてきなカフェがある駒場友和ビルの3階と4階です。（当日は自由に会場に出入りできますが、参加をご希望の方は、できるだけ事前にお電話かインターネットでご連絡ください。）

主催；夢の実験室＜wa！＞＆でかけヨット・ブルキナ・プロジェクト

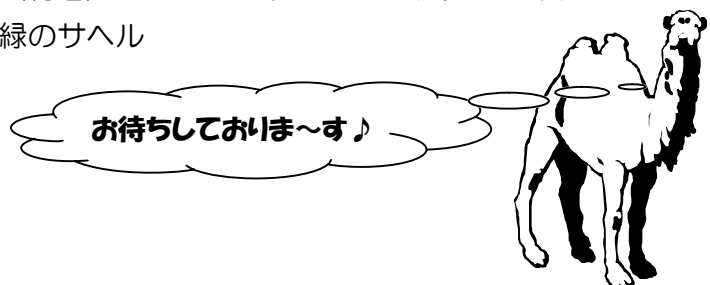
連絡先；（電話）03-3465-7748 （メール）w@wawawawa.net

（URL）<http://www.wawawawa.net>

詳細はこちらをごらんください。

共催；（認定）日本ブルキナファソ友好協会、（特活）ハンガーフリーワールド、ブルキナファソのストリートチルドレンを支援する会、緑のサヘル

後援；在日ブルキナファソ大使館



ありがとうございました

【 新規会員の皆様 】

遠藤 聡／河野 明佳

【 継続会員のみなさま 】

石川 祐一／遠藤 保子／岩永 孝子／林 裕之／長谷川 奨／須藤 美智子／鈴木 寿一／武内 進一／大森 恵子
青柳 忠浩／高橋 まり子／津川 安正／村井 智恵子／村田 広平／高松 千枝子／佐賀 明子／小川 あい子
善宝 正文／大枝 純、美智子／水真 陽一／須藤 さい／森内 和子／田中 洋介／太田 弘子
門村 浩／菊地 博子／矢野 友一郎／北川 華子／田辺 諄児／田中 真智恵／大池 良平／望月 克哉
亘 友子／榎本 みつ枝／福川 佐代／村上 康子

【 ご寄付を頂きました。ありがとうございました。 】

井上 茂／萩原 たか子／加藤 正博／石垣 美和／須藤 美智子／毛利 広孝／米原 すみ子／松本 文子、フミ
村井 智恵子／村上 和代／滝川 なおみ／石塚 由紀子／小田桐 勉／太田 正央／株式会社 エフエスティ／矢島 昌子
瀬戸 栄一／太田 弘子／加藤 正博／小林 伸張／丹 邦子／田辺 諄児／幼きイエズス修道会／亘 友子／永井 直子
三重県四日市市常盤中学校修学旅行生／石川 麻衣／天野 洋子／永井 邦子

【 助成団体からの助成金 】

日本経団連自然保護基金／毎日新聞東京社会事業団／財団法人 地球市民財団

(敬称略、入金順)

上記は 2006 年 5 月 1 日から 2006 年 7 月 31 日までにご支援頂いた方のご芳名であり、2006 年 8 月 1 日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂きました。また、お名前の公開を承諾された方のみを掲載させて頂いています。あらかじめご了承下さい。

- * 住所変更などによる、ニュースレターの不着及び返却が増えています。お引越しや町村合併などによりご連絡先が変更になる場合は、お手数ですが事務局までご連絡ください。
- * 尚、個人情報漏洩等による犯罪が増えております。緑のサヘル事務局でも、会員の皆様の情報管理には慎重に慎重を重ね、セキュリティ対策には万全を心がけています。

おしらせ

書き損じ葉書で国際協力しませんか？

書き損じ葉書、使わなかった古い年賀状などを大募集しております。1枚でもかまいません。どうぞ緑のサヘルにご寄付下さい。いただいた葉書は、新品と交換もしくは換金し、活動に利用させていただきます。

絵葉書 プルキナファソからの便り

第47回産経児童出版文化賞受賞の小松義夫氏の作品による緑のサヘル特製プルキナファソ絵葉書も発売中です。

穀物を風で選り分ける婦人の姿が特徴的なAセット、タカバングウ村の少女も収められたBセットの2種類があります。また、今年からは一枚からでも販売しております。ご注文は緑のサヘル事務局までお願いいたします。なお、売上は活動費に充てられます。

価格400円/1セット(4枚)

100円/1枚

郵送ご希望の場合、郵送料は別途申し受けます。

2007年 緑のサヘル オリジナルカレンダー

【目次】

- | | |
|-----------------|------------|
| 1・・・表紙 | 5・・・国内活動告 |
| 2・・・JICA事業報告 | 6・・・イベント告知 |
| 3・・・チャド活動報告 | 7・・・ありがとう |
| 4・・・プルキナファソ活動報告 | 8・・・お知らせ |

<編集後記>

皆様、暑中お見舞い申し上げます。チャドから戻って早1か月が過ぎました。あちらは連日40℃前後の猛暑でしたが、何とか乗り切ることが出来ました。でも、東京の蒸し暑さには少々バテ気味です。私にはアフリカの乾季よりも、日本の夏の方がしんどいです。(菅川)／事務所が神田に移って半年が経ちました。場所柄、飛び込みの営業戦士の訪問をうけることがかなり増えてきましたが、緑のサヘルがNGO団体と知って怯む方、興味を持ってくれる方、リアクションは十人十色で、彼らの表情を伺うのは大変興味深いものです。ともあれ、お客になれなくてごめんなさいね。(佐藤)

ご贈答品・お歳暮にどうぞ

ハケ岳農場の特産品

ハケ岳中央農業実践大学校の特産品がさらに充実しました。これまでの手作りチーズとアイスクリームに加えて、チーズケーキ、カレー、ソーセージなどハケ岳の新鮮な材料と確かな技術から生まれた品々が勢揃いの10セットです。各地への送料を含めた価格は下記の表にございます。大学校のご厚意により、お求めごとに定価の20%が当会に寄付されます。

【お申し込み方法】郵便振替用紙にご依頼人様とお届け先様のご住所、氏名、電話番号、ご希望セット名と数量をご明記の上、下記までお振り込みください。

00140-9-50425「緑のサヘル」

お振り込みから到着まで10日程かかります。

		関東 信越 北陸 中部 南東北	関西 北 東北	中国	四国	北海道 九州	沖縄
A	アイス10個	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
B	アイス20個	6,400	6,500	6,610	6,710	6,810	7,020
C	チーズ	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800
D	アイス / ケーキ2種	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
E	ムース	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
F	ケーキ	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
G	カレー / チーズ	5,000	5,100	5,210	5,310	5,410	5,620
H	ケーキ2種	3,230	3,330	3,440	3,540	3,640	3,850
I	カレー	3,580	3,680	3,790	3,890	3,990	4,200
J	チーズ / ソーセージ	5,730	5,830	5,940	6,040	6,140	6,350

内容の詳細は同封のチラシをご覧ください。

* チラシの価格には送料が含まれていません。送料込みの価格は、上記の表をご参考にしてください。

La Forêt, C'est la Vie ! Vol. 27

編集 菅川 拓也 佐藤 裕美 / 発行 菅川 拓也 / 発行所 緑のサヘル / 印刷 社会福祉法人 東京コロニー

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町16番地 田澤三ビル3F TEL:03-32521040/FAX:03-3252-1041

HomePage : <http://www.jca.apc.org/~sahel/> E-mail : sahel@jca.apc.org